

PHD LETTER

41

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

1991・12

- マミムメセッション、クライマックス 4・5P
- ツアーレポート、インドネシア&バブア・ニューギニア 3P

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行:財団法人PHD協会

編集人:草地賢一

住所:〒650神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202

TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867

郵便振替:神戸1-29688 財団法人ビー・エイチ・ディー協会

定価:100円



バブアニューギニア ワリンガイ村にて 撮影/田口正之

ウォー、ウォー、ウォー!!
地の底から湧き出すような村人の声。
ドン、ドン、ドン!!
空気を震わすドラムの音。

レルさんの村人が私達に与えて
くれた心からのシンシン。

テレビやドラマの中のショーでなく
心を通わせた歓迎のパフォーマンス。
胸がジーンとなるだけでなく思わず
涙が出てきたのは私だけでなかった。

2001年に向けて

フロンティア（辺境の先駆者）によって提唱され、それを自分の責任において担ったバイオニア（開拓者）の努力でPHD運動は10年の歩みを続けることができました。

延べ10万人の人びとに「生きる」とは分かち合うこと、弱者者と」というメッセージが伝えられ、約8万人の理解と支援を過去10年の間に得ました。ホームステイを提供して下さった約500家族、直接間接に農、漁業、保健、衛生、保育、洋裁、手芸、編物などの指導をして下さった方々は、約2,500人にのぼります。また研修生が滞在中に出会って下さった方々の中から、約500人が帰国して頑張る7ヶ国14ヶ村の48人を訪問し、交流を深められました。

さらにこの10年間で何と約7億円の浄財が会員、協力者を中心に捧げられました。まことに感謝であります。

九州筑豊に「虹の会」、北九州に「アジアを考える会」、広島市に「広島PHD」、島根に「島根PHD」、兵庫但馬に「但馬PHD」、岐阜高山に「PHD飛騨友の会」、他に和歌山、東海、中部、湘南、東京首都圏などにPHD運動を進める人々の群れが出現してきています。これらの人々は、その地で例年研修生を迎え交わり、また具体的な研修引き受けや会費、寄附など直接的な支援の輪を拡げてくださっています。

この他に主に兵庫県を中心に農業研修を引き受けご指導くださる方々の「農家会」も定着してきました。

この10年、粉骨砕身して運動を軌道に乗せて下さった、提唱者の岩村先生、理事長の今井先生を始めとする理事の諸先生方、評議員の方々、そして何よりも事

務局に交代で出て下さり、日常の仕事を担って下さったボランティアの方々の努力がやはりこの10年の原動力でありました。

同時に設立以来関わった、職員の献身的な働きがあってこの運動は動いてきたことも忘れられません。



海外のゲストは18人にのぼった。

2001年、PHD20周年に向けて取り組むべき課題は山のようにあります。基本金を増額して安定した運営を図る。会員を5,000人まで増やしたい。研修内容を充実強化しなければならない。帰国した研修生とその村へのフォローアップシステムを作り上げねばならない。アジア、南太平洋の村々の人々と暮らしをさらに研究し、もっと深い彼らのニーズを把握したい。そのための調査、折衝能力をつけたい。欧米のNGOや第3世界のNGOとの情報交換、ネットワークを確立し、地球規模で共同の活動を進めなければならない。それと対応して兵庫県内で、関西地方で、そして日本全国で、国内NGOのネットワークをさらに、強化、拡充しなければならない。

地方自治体、外務省などとの折衝能力を培い、NGOの立場を守りつつ政府開

発援助の質を高める役割が担えるよう自らを成長させたい。

そしてこれらの能力を開発、発展させるために、市民レベルの理解、関心を引き出していききたい。市民自身の中に「援助、協力から交流、連帯へ」という「慈善」に止まらない運動が、さまざまな市民運動と連携し起きてくるような触媒としてPHDは貢献したい。

課題を挙げていけばきりがありません。我々はまずこのような課題を担っていける資質を自らの内に培い、そして取りかかるための順番を注意深くつけていく必要があります。

そのために私は、次の事を会員、協力者の皆様に申し上げご理解を得たいと願っています。

まず生活のムダを省き、質素に暮らし10%の「分かち合い」をもう一度、周囲の友人に訴えて下さいませんか。

第二にこの暮らし方が地球の資源を持続的に使い、少しでも次の世代によりよい環境を引き継ぐことになること。そして、豊かな国や人と貧しい国や人との共存につながることを、私達の子供に伝えてくださいませんか。

地球世界は今、東西問題から南北問題の解決が切実に求められています。私達の豊かさを拡大していく暮らし方は、南の貧しさをさらに大きくしています。このままでは2001年から始まる21世紀は来ないかも知れない。とすればPHDの20年もないことになってきます。

21世紀に向けて、PHDの20年に向けて会員、協力者のご努力を心から願うものであります。

総主事 草地賢一

私もちょっと 世界を斬る!

沖縄・アジア・太平洋

西尾市郎(沖縄県那覇市 牧師)

ジャネット・パテルナさんの受け入れを通して、PHDの働きを知ることができ、感謝しています。

さて、考えてみると沖縄は、アジア、太平洋から南米各地に出かけて交流してきた歴史をもっています。そして、今私

たちは日本・東京へ目を向けて、走らされていることの反省としてアジア・太平洋そして琉球弧(奄美から弧を描いて点在する沖縄の島々)の沖縄に注目しています。前者の例では、「沖縄出身の大臣が生まれる」かどうか、マスコミはいま一生懸命です。うんざりです。

3年前、ネグロスを訪ねたとき、砂糖キビ労働者組合の青年が、「沖縄は日本ではないよ。フィリピンの一部だよ」と

言っていました。冗談で言った言葉ですが、なかなか意味ぶかいものがあります。

沖縄タイムという言葉があるように、時間にギスギスしたところがなく、「てーげー」という言葉があるように物事に対しておおらかです。そして、ちゃんぶるー(その時あったいろんな野菜を豆腐や豚肉と油で炒めて食べる)文化といわれるように多様な文化を許容しています。

インドネシアレポート

私は由利田無林。

例年ですと一般参加を募ってインドネシアへスタディツアーを送っていますが、今年は夏にマミムメセッションの行事が集中したため、代って9月に役員によるスマトラ訪問となりました。今井理事長、崎山理事、草地総主事の3名が5人の研修生の待つ漁村に入りました。

崎山理事は神戸新聞論説顧問、帰国後記事となったものを、神戸新聞のご好意により転載させていただきます。(91年9月19日神戸新聞朝刊「正平調」より)

由利・田無林ことユリ・タムリン君と



新居を自慢する？ユリ君

パプア・ニューギニアフォローアップ・スタディツアーレポート

第1回のPNGツアーは、70才の山端さん以下総勢5名の参加を得て、去る8月17日から約2週間の日程で実施、ポート・モレスビー、レイ、フィンチャーフェン、ラバウルを巡りました。帰国直後のヘルベ、レル君の村を訪ね、素晴らしい草の根の出会いが実現しました。併せて送り出し団体のメラネシアキリスト教協議会、ルーテル教会農村開発部なども交流、足を伸ばしたラバウルでは、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学びました。参加者を代表して高橋敬子さんの声です。

パプア・ニューギニアのスタディツアーには、2つの目的がありました。ひとつは帰国された研修生での自国での活動を見て、肌で感じてくること。もうひとつは、研修生のヘルベさんの日本でのお父さんである山端さんが、第二次大戦中に親しくなった友人のジュピリさんを、47年ぶりに尋ねて行くことでした。

ヘルベさんの家では、奥様、ご兄弟、明るく、ちょっと恥しがりやのかわいいお子様たちが大歓迎をしてくれました。ヘルベさんは農業技術の向上を目指す組織づくりの構想をもたれているそうです。今、日本で研修されているラニーさんの村では、日本から持って行ったラニーさんの声のテープを、ご両親に聞いて

はインドネシア西スマトラ州の州都パダンの空港で初めて出会った。五日間のスマトラの旅で終始、案内してくれたユリ君の、見事な日本語とキビキビした折衝にどれだけ助けられたことか。

草の根の国際交流を進めている神戸のPHD協会の招きで漁業研修生としてユリ君は五年前に来日した。一年間の研修で得た成果を母国に持ち帰り、州の漁業振興局の改良普及員として漁業技術改善や協同組合づくりに取り組んできた。

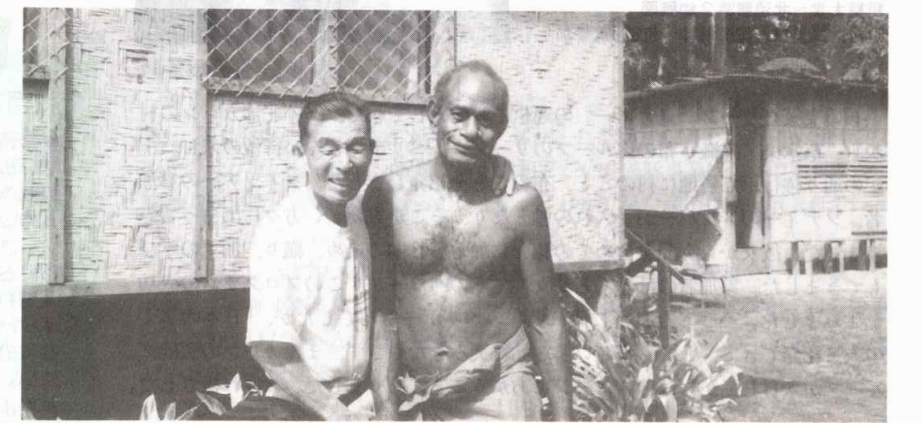
だが、当初の二、三年は悪戦苦闘の連続だったようだ。同じ漁業といっても日本とインドネシアではあらゆる面で違いが大きく、なかなか落差を埋められない。仕事上の壁に加えて個人的な青春の悩みもあったようで、昨年会った時は浮かぬ顔だったと、同行した協会の草地賢一総主事も心配気だった。

ところが驚くほど快活なユリ君だったのである。それには理由があった。勤めの合間に開いた日本語教室の縁で、「アッチャン」という、それはかわいい良き伴侶と最近、巡りあえたからだ。

ユリ君の案内で、PHDの拠点パシルバルという漁村を訪ねた。目に見えるほどではないが、エビ養殖など少しずつ改良普及の実が挙がっているのがわかって心強かった。来春には同村から三人目で初の女性研修生が公衆衛生の勉強に来日する。

ユリ君は今やアリ君、ペディ君らPHD研修生仲間のリーダーだ。彼らの草の根ネットワークはインド洋の荒波が洗うスマトラの浜辺に、根を着実に広げつつある。新婚の喜びをバネに、一層の奮闘を祈る。

私たちはPHDの理念にそってパプア・ニューギニアに物やお金を持っていきませんでした。研修生が日本で学んだことを基にして、自分の国の自然や文化にあった方法で、自分の国の人々の健康や平和を創り出していく過程に、PHDの活動は協力者として携わっていると思えました。一方、パプア・ニューギニアの自然の中で自分たちの文化を尊重して生活しているパプア・ニューギニアの人々の姿を私は学び、日本の文化や社会や自然を顧みる良い機会をもつことができました。帰国された研修生の自国での働きは、いつでも順風というわけではありません。日本の多くの人々の暖かい励ましが、帰国後の研修生の働きを支えていくと思えます。



山端さんとジュピリーさん。

枝打族in丹波大山

6月に行った枝打族in播磨に続く、林業体験合宿パートII、枝打族in丹波大山はマチからの参加者のみならず、地元の皆さんに大変喜んでいただいた行事となった。昼間は外での作業、夜は講師を囲んでの勉強会と中身も濃い。参加者はほぼ全員が初体験、苗床見学下草刈、枝打ち、植林見学登山、間伐、間伐材加工、記念植樹とひととおりを経験した。夜は林業講座、熱帯林問題、農山村の過疎とリゾート開発を討論。日本の中のマチとムラ、そしてタイ、韓国、ネパールからの参加者を得て、またウータン（森と生活を考える会）のゲストを交え、多くの問題を考える機会となった。

8/20~24 兵庫県丹波町/財大山振興会、篠山農林事務所、丹波町と共催
後援財三菱銀行国際財団 32名参加



あわじ国際縁日

9/28・29 兵庫県洲本市、県立淡路労働センター/あわじ国際縁日実行委員会、県立淡路労働センター、淡路労働者福祉協議会 主催 400人参加



淡路島の皆さんに協力して参加した国際縁日、異なる国や地域の文化にふれ、人々と交わり、楽しく世界と出合い理解をはかる目的で行われました。PHDからは4人の研修生と布のベリポーさん、若手メンバー8人が参加。

ジャネットさん、ラニーさんがフィリピン料理アドボ作りに、ナンダナさんが売り子として、ベリポーさんは、布の実演、サウエーさんが歌の披露をと、それぞれが、大活躍しました。個人的に、アジア各国の珍味を、人に売るよりもたくさん自分の胃袋に収めてしまったという反省が残りますが、たくさんの人と交流できた、楽しい2日間でした。

(当時会社員 平野真理)

9/27~11/5 兵庫県洲本市/「あわじ国際縁日」〜一宮町〜大阪府藤井寺市/「くらしを考える会」〜鳥取県倉吉市/倉吉交流会〜兵庫県八鹿町/「608研究会」、但馬PHDの会〜芦屋市/田中千代服飾専門学校〜東京都世田谷区/生活クラブ生協労組〜第3世界ショップ交流会〜千葉県浦安市/「コブクン・マーク」〜船橋市/船橋YMCA〜神奈川県横浜市/「舞岡水と緑の会」〜大阪府豊中市/ガールスカウト61団交流会〜兵庫県三木市/「緑が丘文化祭」〜波賀町〜一宮町/サークル・ハッピーライフ交流会〜神戸市/頌栄女子短期大学〜北須磨第2幼稚園
後援財三菱銀行国際財団 延800人参加

布の織り手を迎えて



倉吉市での交流会で

布の支援グループ「ソディー」の通信でお伝えてきた、タイ北部カレンの村から、草木染・手織り布のグループのリーダー、ベリポーさんが待望の来日。上記の通り強行軍で各地に村のこと、布のことを紹介しました。タイツアーの参加者、ソディーのメンバーが受入れの軸となり、そこから新しい方々に出会っていききました。彼女から実演を含めての紹介に加え、日本の染め、織り、加工の学びもできました。参加者のほとんどが女性でそのパワーが、このプログラムの成功を生み出しました。ハードな日程に疲れ気味のベリポーさんでしたが、「日本の多くの人に紹介できて、とても嬉しい」と始終笑顔をたやみせず、またカレンの芸能グループが来日してからは、ステージにあがることもありました。お疲れ様でした。

PHD10周年記念事業 マチと南太平洋・アジアとムラをつなぐメドレーセッション

あたらしい10年に向けて

～11月3日記念式典報告



打合せをする当日スタッフ。

よくぞここまでやったり。計画当初より、ホンマにここまですんの？との声もあった多岐に渡った10周年記念事業「マチと南太平洋・アジアとムラをつなぐメドレーセッション」は、11月3日、神戸の西山記念会館で行われ、記念式典〜記念講演〜交流パーティ〜アジア草の根コンサート「アジア見聞楽」でクライマックスをむかえました。9月から班編成をし、1週間前は連日、深夜に及ぶ準備のかいあって、当日は好天の中、九州、四国、中国、山陰、中部、関東などから300余名の参加者、海外からは、今期研修生5名に加え、タイ、フィリピン、韓国から13名のゲスト、来賓に貝原兵庫県知事、笹山神戸市長、平田関西国際協力協議会議長を迎え、盛大に行われました。

日常的な活動は地味ながらも、10年の人的つながりの蓄積はたいしたものだと思われ、主婦を中心にした準備メンバー一同、手前味噌ながらも感慨深いものがありました。

2時から始まった会は、今井理事長のお礼と挨拶、来賓の祝辞、海外ゲストの紹介の1部、久しぶりの提唱者岩村博士の講演の2部までがフォーマルに、4時すぎからの3月からの行事の参加費で賄った料理を囲んでの交流パーティでは、研修先の農産物バザーコーナーもあり、集った人々が交わりました。また料理を食べ残さなかったことを報告しておきます。

6時から一般参加者も加わってのコンサート「アジア見聞楽」。ネパールのブバン・タムラカールさんの舞、フィリピン・ネグロスのラリー・オセーナさんのギターと歌、タイ・カレンのグループ「ポーモロー」の伝統芸能と2時間のステージでたっぷりアジアを味わいました。

10年というひとつの節目を経て、次の10年、2001年にむけて決意をあらたにした1日となりました。



理事長の挨拶。



歌に託したネグロス民衆の叫びは訴えるものがあった。



遠来の会員をむかえ盛り上ったパーティ。

当日アンケートから

11月3日の感想

- 素晴らしい会でした。海外へ行かない私でも世界の方々に会って生活にもふれる事が出来ました。
- カッチリした1・2部、リラックスした3・4部、楽しめました。ラリーさんの歌にパワーを感じた。
- 関わる人の顔が輝いてました。
- PHDの会員のみならず、地域社会への参加を呼びかけた行事で意義深い。
- 集まった人がもつと意見を交わせたら。

日頃の分かち合いは？

- 私の経験で役に立つ事があれば、誰にでもお分けしたいです。
- 生活の中でムダを省くこと。
- 出逢う人ごとにまっさらな目で接したい。
- 私が自分の事だけを考えていたら、人間として存在価値があるのだろうか。
- 障害を持つ子の担任をしています。みんなで共に生きていけたらと思います。
- スリムでシンプルな暮らしを。

これからのPHDにご意見を

- 発展を期待しますが、欲ばり過ぎてオーバーワークにならないように。
- PHDらしさを大切に、PHDだから関わるんだという人をふやして下さい。
- 私のオンボロ車の機動力を使って下さい。
- もっとマスコミや企業、組合などにPRしたら。タイの布のアイデアは良い。
- 国内外のボランティアとしての関わり方をもっと紹介して。
- 身近に出来る事のヒントを。
- これまでの研修内容を広げ、すべての職業に交流が生まれれば、日本を近隣の国から変えられる。

但馬PHD教育講演会

10/13 兵庫県八鹿町・養父郡農協会館
主催：八鹿ライオンズクラブ、共催：八鹿PTA・八鹿町子連協 200人参加



10周年の記念事業を但馬の地でも、と行われたもので、教育講演会から、但馬農業高校とPHD研修生の交流の歴史の紹介、野菜・パンの即売、ベリポーさんの布織り実演、研修生とのフリートークと盛り沢山の1日でした。

前日に布の交流会を行って下さった、608研究会や但馬PHDの方々とは、研修生にとって、春の野草を食べる会以来の再会となりました。

岩村先生の講演は、人づくり・人とのつながりが、大切なんだよと、切々と訴えるものがありました。

アジア草の根コンサート「アジア見聞楽」

10/18~11/5 兵庫県丹波町・四季の森広場「アジア伝統芸能交流祭」/丹南ライオンズクラブ〜同・大山小学校〜大阪府豊中市・婦人会館「ザ・つどい」/国際交流の会とよなか〜鳥根県松江市・末次公園「国際交流フェアinしほね」/鳥根県国際交流センター〜兵庫県福崎町・公民館クラブセンター〜大阪府箕面市・メイプルホール「ヒューマンコミュニティのお」/箕面市〜神戸市・西山記念会館

後援財三菱銀行国際財団、財神戸国際交流協会、淡神文化財協会 延1300人動員

いきなり南北問題だ、国際協力だ、ODAだといわれると尻こみしてしまうのがまず普通、もっと気軽にアジアを知り、興味、関心のきっかけにと始めた芸能交流も今年で3年目。10周年事業としても位置づけ、北タイの村からカレンのグループ「ポーモロー」(野生の蘭の意)の4人、サニー、クルー、クルポー、パリローさん、ネグロスからラリー・オセーナさんを迎え3府県7回の公演を行いました。いつもは他の仕事を持つ人々ですが、それぞれに芸達者。素朴な味わいが各地で好評。公演の間には農家での家庭滞在を通じて、日本の農業の研修も行いました。



農民交流

後援財三菱銀行国際財団
東北タイ/トンスク氏 10/18~11/5 兵庫県丹波町〜市島町〜氷上町〜波賀町

フィリピン・ネグロス/ヘスス氏 10/31~11/15 兵庫県市川町〜市島町〜神戸市〜南淡町〜洲本市



波賀町の田中さんの田んぼでのトンスクさん(右端)



ジャネットさんの通訳で、一色さんから推肥作りの話を聞くヘススさん。(右端)

タイ、フィリピンの研修生送り出し団体から、2名の村のリーダーを迎え、兵庫県内農業者と交流を深めました。

タイ東北部、サイナワン農民協会からは、トンスク・チョンプラートさん(50才)。同じ村のサウエーさんがガイド・通訳として同行しました。タイの村でワラヤ、サンコム、バムルンさんたちと取組んでいる養豚事業は、餌の共同購入、豚の共同出荷・豚の繁殖を行っています。日本で見た産消提携を取入れていきたいと、話してくれました。

フィリピンネグロス西州、KASAMA(南ネグロス小農民協会)からは、ヘスス、アルザガさん(42才)。ジャネットさんが同行しました。彼が「自分の手で作る野菜はたいへんかわいいから、農薬を使う気にはなれない」と話したように、日本の有機農業からの学びは、今後の大きな支えとなるでしょう。

また韓国の6人を迎えての交流は、11月2日から15日まで行いました。

研・修・生・レ・ポ・ー・ト

サムスアリスさん/インドネシア

田子遠洋漁業協同組合～田子漁業協同組合(静岡・西伊豆町)～香住漁業協同組合～マルニ竹内商店(兵庫・香住町)～山田義治氏宅(島根・宍道町)

今年1月に来日したサムスアリスさんの研修も、12月の帰国を前においこみに入りました。8月後半から10月終わりにかけては、インドネシアの彼の村を訪ねて下さった2人の漁業者から直接指導を受けました。静岡県田子の山本佐一郎さんには、擬似餌を使ったはえなわ漁を、兵庫県香住町の吉岡修一さんからは底曳き漁を船に乗って研修させていただきました。母国の村では日帰りで沖合いに出漁しているサムスアリスさんにとって、一週間に及ぶ航海は船酔いとたたかいて



祐祥丸船上ではえなわ漁の準備をするサムスアリスさん

になりました。この時期、台風の到来で海が荒れていたことも、彼には災いしたようです。陸に上がってからは、獲った魚の加工を中心に学んでいます。手先はかなり器用で、村に帰って役立つものを習得しようとがんばっています。



老人ホームで、消化のよい食べ物作りの指導を受けるサムスアリスさん

ジャネットさん/フィリピン



お世話になった保母さん、栄養士さん、子供たちと…韓国比較研修～あわじ国際緑日ゲスト参加(洲本市)～愛泉保育園(沖縄・那覇市)～ひかり保育園(沖縄・宜野湾市)～友愛保育園(沖縄・那覇市)～みつる保育園(沖縄・糸満市)～光の子保育園(沖縄市)～牛尾武博氏宅(兵庫・市川町)～根雨保健所/笹間政典氏宅(鳥取・日野町)

ジャネットさんの10月の研修は、キリスト教保育所同盟の方々のネットワークで、沖縄の保育所を中心に展開しました。沖縄は地理的にフィリピンに近いせいか、食生活、文化の面で故郷と共通した部分が多く、ジャネットさんは親しみが持てたようです。研修も、栄養に重点をおいた内容の濃いものになりました。PHD研修の中で沖縄はアジアに近く、政治的にも米軍基地を抱えた戦争の爪跡が深く刻まれた土地柄であり、研修生にとって学ぶべき点が多く、今後もネットワークの中に組み込んでいきたいと思っています。

李さん/韓国

送り出し団体の都合により期間を短縮し、PHDでの研修を8月末に終え、9月中旬韓国に帰国しました。

PHD事務所でのNGOの運営、ボランティアの方々の参加の仕方などの学びは、帰国後の活動に参考となる所が多かったようです。李さんが日本で親交を深めた方々と今後も交流を続けながら、韓国で頑張っていきたいと決意を話してくれました。韓国からの便りでは、当分毎年夏に研修生が訪問している洪城のブルム農高を中心として地域共同体の中で、今後の活動についての方向づけを考えていきたいとのことでした。

ナンダナさん/スリランカ



手で刈った稲を稲城に吊るすナンダナさん

韓国比較研修～あわじ国際緑日ゲスト参加(洲本市)～三谷康氏宅(兵庫・黒田庄町)～大森昌也氏宅(兵庫・和田山町)～八鹿町教育講演会ゲスト参加(兵庫・八鹿町)～加美町農協農機センター(兵庫・加美町)

ナンダナさんは、韓国の研修から帰国後5月に田植えをした三谷さんのお宅での稲刈り、そして肉牛の肥育、野菜作りが中心になりました。三谷さんの農業に対する考え方を生活の中から数多く学ばせていただくことができました。肉牛と乳牛の違いはあれ、えさの作り方、畜舎の建て方など参考になる部分も多かったようです。10月9日～13日の間は、和田山町の大森さんのお宅にサウエーさんとお邪魔し、手作業による稲刈り、そして手作りのパン焼を行いました。ナンダナさんの仕事の早さにお家の人は舌を巻いていました。

慎司氏宅(兵庫・市島町)～吉田吉彦氏宅(兵庫・氷上町)～山田芳弘氏宅(兵庫・社町)

10周年のマミムセッション開催に合わせ、タイから6名の短期ゲストを迎え、サウエーさんの顔は緩みっぱなし。というのも、通訳として久しぶりに思う存分タイ語を話せたからです。

この時期に出会った方々の中で、サウエーさんにとって市島町の橋本さんとの出会いは大きな刺激となりました。自給的な農業と、何でも積極的にとりくむ市島の若いお百姓さんたちに、学ぶことはまだまだたくさんありそうです。

サウエーさん/タイ



豚の解体は付加価値をつけるためにもタイでは大切

韓国比較研修～あわじ国際緑日ゲスト参加(洲本市)～田中五郎氏宅(兵庫・波賀町)～大森昌也氏宅(兵庫・和田山町)～八鹿町教育講演会ゲスト参加(兵庫・八鹿町)～アジア伝統芸能交流祭ゲスト参加(兵庫・丹南町)～橋本

'91 韓国レポート

比較研修報告

今年の比較研修は9月5日から19日まで、忠清南道礼山・洪城、慶尚南道居昌、全羅南道海南で実施しました。9期生のジャネット、ラニー、ナンダナ、サウエーに職員中尾に加え、前半、兵庫県播磨町の会員大村良光さんが参加し、交流を深めました。今回は大村さんのレポートをお届けします。

ソウルの九月は爽やかだった。広い道路、新築中のビル、沿道に見えるカラフルな民家等、十数年前の訪問とは、うって変わった発展である。日本の変化も早い韓国では「五年一昔」の感がある。農家を廻ってみると、せいぜい、「歩いて耕す耕運機」との予想はみごとにはずれた。納屋にはトラクターがあり、四百万円だという「イセキ」のコンバインを使っていた。一戸あたりの耕作面積も日本よりも遙かに広く、三～四ヘクタールを耕している。

農業の機械化に驚くと共に、彼等の勤勉さんにも敬服した。広すぎる耕地の凡ての田の畔に、なんと、一昔前の日本と同じく、畔豆が植えてあるのだ。農業使用にも配慮があった。田んぼには、今でもどじょうやたにしがたくさんいるという。

生活を豊かにする近道は、「真面目に働くこと」だと、研修生に認識させる旅でもあった。しかし、彼等も様々な問題を抱えている。「米輸入による減反政策、低価格で入る中国野菜、農業後継者の払底と花嫁不足」――あまりにも日本と同じ悩みを持つ隣国である。それにしても、大勢の人にお世話になった。キムチもたっぷり味わった。かつての怨念を微塵も出さず、温かく迎えて下さった方々に心から頭が下がった。

短期研修生紹介

昨年に引き続き、今年もPHD研修生の訪問先の韓国の農村から6人を招きました。11月3日の式典にあわせての来日で10周年記念事業、アジア農民交流の一環ともなりました。11月2日から15日までの滞中で、兵庫県丹南町、福崎町、春日町、市川町、稲美町、氷上町、市島町、神戸市、大阪市と精力的にまわりました。

名前	年齢	所属
曹 東煥	36才	礼山農志会事務局長 研修生受入
姜 泰恒	59才	農業大学教授
崔 相業	34才	ブルム農高教員 研修生受入
金 奎植	30才	居昌農会会長 研修生受入
崔 南植	71才	農村青少年教育中央会 会長 研修生受入
李 雄培	32才	海南農会組織部長 研修生受入



洪城のブルム農高では今年も大歓迎を受けた。



左より:曹、崔相業、李、金、姜、崔南植 各氏

PHD NEWS

〈会費・ご寄附寄託状況〉

1991年 8月	61件	766,426円
9月	58件	1,317,745円
10月	69件	2,792,454円
合計	188件	4,876,625円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴致しました。ご協力いただき、深く感謝申し上げます。

〈自動車総連よりご寄附〉

昨年に引き続き、大きなご支援を戴きました。全国75万人の自動車産業に働く労働者が「愛の定期カンパ」として一人あたり200円を拠出して下さったものの一部です。文字通りの浄財として感謝して用いさせていただきます。

と思います。

〈毎日国際交流賞受賞!〉

10月6日、第3回毎日国際交流賞を戴きました。この賞は年を追って候補の団体や個人の推薦が多くなっているとか。受賞理由は「アジア・南太平洋七ヶ国の農、山、漁村における人材育成への貢献」ということでした。皆様と共に喜びたいと思います。ありがとうございました。

〈西日本研修旅行でのお出合いを〉

9期生の1年間の研修のまとめとして今年も西日本におじゃまします。研修生、職員一同これまでに到達した方々、まだ見ぬ皆様との出合いを楽しみにしています。交流会や訪問を希望される方、またこのツアーに同行

される方大募集です。

〈予定〉 1月20日(月)～2月8日(土)
大分～筑豊～北九州～福岡～宗像～熊本～水俣～長崎～広島～広島県北～倉敷～備前～岡山～神戸

〈春のタイ・スタディツアー〉

大好評のタイへの旅。布の里から交流の輪はまたひとつ広がります。

日程 92年3月下旬
募集 10名
費用 約18万円
コース タイ北部の山の村
ブリチャーさんの実家を経て、さらに奥の未踏の村へ入ります。カレンの村を思う存分感じる旅。

○月×日のPHD協会

総主事・草地 10周年式典準備のため職員、ボランティア入り乱れて事務所テンヤワンヤの中、各部隊長から総主事に対しての業務指示がなくオロオロ。打上げにカンパ拠出で存在を示す。有難や。

主事・藤野 2日で800 kmの車での出張の帰り、雨に打たれ、それまでの積もる疲労と相まって、とうとう大カゼをひいて一日欠場。気合に欠ける奴がカゼをひくのだとの豪語が裏目に出、恥をかく。

主事補・中尾 レギュラー研修生に加えタイ、フィリピン、韓国の短期滞在ゲストを各地とつなぐため走りまわり、帰宅

が深夜に及ぶこともしばしば。だから休日にはしっかり寝て頂戴。遊びにでないで。

囑託・小松 布の織手ペリポーさんの滞在ケアを中心に超多忙の日々、レターの編集、バザーの荷発送などが加わり、10月は水曜休みもどこかへ。髪をかきむしり仕事に打込む様に皆、感動。

囑託・延安 予定通り9月までの任期を終え2ヶ月の予定でタイへ旅立つもバンコクとチェンマイにおつかい有。後任がみつかるまでのリリーフとして出口京子さんが1ヶ月を支え、10月なかばより、未成年平野真理さんにバトンタッチ、マウンテンバイクで山を走りまわるを好むそうで、時折自転車出勤。また経理の助

っ人として元銀行マンの小幡保さんが週3回お手伝い。

ケガでしばらく休場中の樋口雅一さん、完治し復帰、11月3日はバザー隊長の任を果たす。枝打IIから参加の学生荒木琢磨さん、式典隊長、コンサート司会と大活躍。そのおちつきぶりから一部に妻子持ちとの噂が出、打消しにヤッキ。草生塾から参加の学生田辺智子さん、コンサートではカレンの母役でステージに登場、すっかりその気に。

春に引退の逸見嬢、加藤嬢、式典に助っ人参加、逸見嬢はそのまま数日間、研修ケアで協力、やめても、働かされる鬼のPHD。ご苦労様。



編 集 後 記

PHDを知ったのは今年の7月も終わる頃でした。幼なじみの近所に住む中尾さん(職員)が“俺の仕事、むっちゃ面白いで一。一度、事務所に遊びにおいで。”と声をかけてくれたことがきっかけでした。事務所では個性豊かな人たちが心暖かく迎えてくれ、その居心地の良さに甘えてすっかり事務所に入り浸るようになり、楽しいことを一杯体験させてもらっています。今迄、農業のことなど全くと

言っていい程知らなかったのですが研修生の付き添いということで、何軒かのお百姓さんのお家へも泊らせて頂きました。採れたての“むちゃうま野菜”、みんなで悪戦苦闘して焼いたホカホカパン、オリジナリティーあふれるそれぞれの家庭料理、体を張って集められたトローリハチミツ等々、この丸いほっぺが落ちちゃうんじゃないかというぜいたくをいくつも味わい、おいしい空気の中で農作業を手伝って、豚小屋の藁の中で眠ってみたり、自然の恵みのぜいたくを総ナメさせてもらった気分です。こんな私に出来

ることなど何もない気もしますが、共に働き、共に食べ、共に同じ景色を見て感動し、共に笑うことから“国際交流”が始まるのではないかと思うのです。このレターを読んだあなたにたくさんの笑顔があることを祈りつつ、あなたもPHDを通して、“新たな優しさや笑顔を発見しにおいて!!”と誘っちゃいます。あなたと事務所で会える日を楽しみにしています。

(19のまりちゃん)

〈編集メンバー〉

赤松恵美子、安藤未貴、小幡 保、柿原登志夫、川那辺裕子、後藤恭子、芝 美代子、田辺智子、浜地律知、樋口雅一、平野真理

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。